

株式会社東陽テクニカ（東証プライム：8151）

# 2022年9月期 第3四半期決算説明資料

2021年10月1日～2022年6月30日

2022年8月10日

“はかる”技術で未来を創る



1. 2022年9月期 第3四半期の決算状況
2. セグメント別状況
3. 2022年9月期 業績予想
4. 企業としての取り組み
5. “はかる”技術への取り組み

# 1. 2022年9月期 第3四半期の決算状況

2. セグメント別状況

3. 2022年9月期 業績予想

4. 企業としての取り組み

5. “はかる”技術への取り組み

## カーボンニュートラル分野、5G／DX分野で順調にビジネスを推進

- **受注好調、売上高計画どおり、受注残高は過去最高**
  - サプライチェーンの回復に遅れがあるも、活況な市況による受注高の大幅増により売上高は期初計画どおり推移
- **カーボンニュートラル分野 受注・売上好調**
  - 自動車業界を中心に、全固体電池や燃料電池など、脱炭素社会へ向けた研究開発投資が進む中、需要の高い製品在庫の確保により、次世代電池開発用測定システム、EV向け急速充電評価装置の受注・売上が、前期に引き続き好調
- **5G／DX分野 受注好調**
  - 通信業界の5G試験、DX関連試験への需要が堅調で受注が好調も、電子部品不足などによる納期遅延により、売上高は前年に比べ減少、受注残高は大幅増加
- **機械制御／振動騒音セグメント 市場の回復で受注好調**
  - 自動車分野で振動騒音計測の需要が回復も、電子部品不足などによる納期遅延により、受注残高が大幅増

## 受注高と売上高は伸長、営業利益と経常利益は増益

(単位：億円)

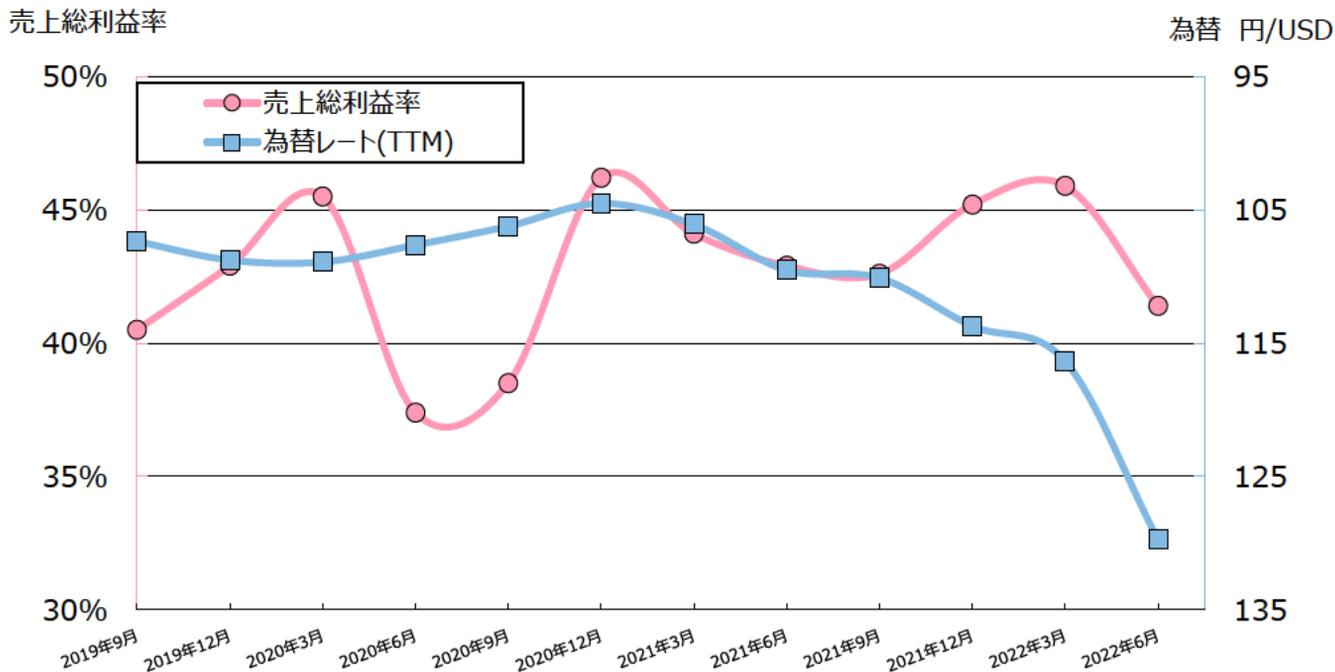
	2021年 9月期Q3	2022年 9月期Q3	増減額	増減率
受注高	197.2	229.5	+32.2	+16.4%
受注残高	91.6	157.9	+66.2	+72.3%
売上高	180.8	189.6	+8.8	+4.9%
販管費	64.1	66.9	+2.8	+4.3%
営業利益	15.9	17.5	+1.5	+10.0%
経常利益	18.8	21.1	+2.3	+12.3%
当期純利益	15.0	14.6	△0.4	△3.1%

\* 2022年9月期は収益認識に関する会計基準を適用しております。

\* 2021年9月期は政策保有株式の売却などにより、特別利益3億3千8百万円を計上しております。

# 為替と売上総利益率

## 急激な円安も、売上総利益率40%以上を維持



1. 2022年9月期 第3四半期の決算状況

## 2. セグメント別状況

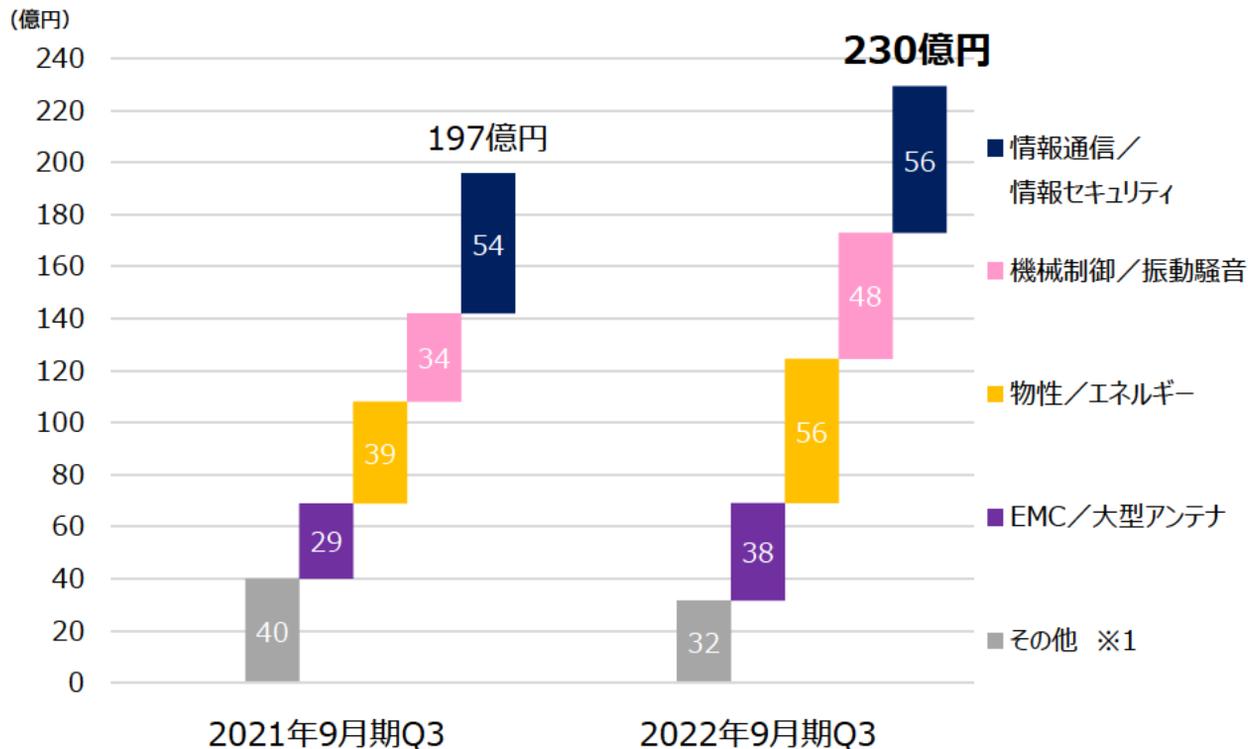
3. 2022年9月期 業績予想

4. 企業としての取り組み

5. “はかる”技術への取り組み

# セグメント別 受注高推移（累計）

## 受注高 前年同期比+16.4%



※1 その他には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンス／マテリアルズの3セグメントが含まれます。

## セグメント別 受注高・受注残高（累計）

### 機械制御／振動騒音、物性／エネルギー、EMC／大型アンテナが好調

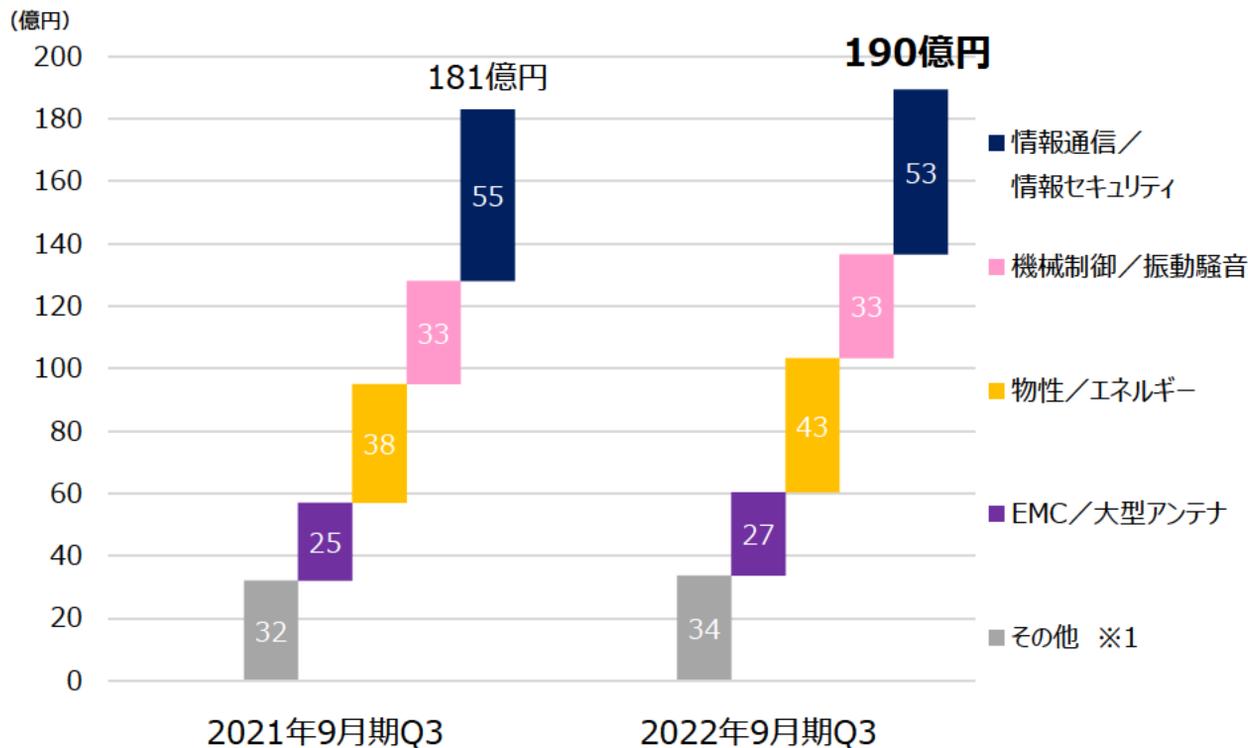
（単位：億円）

セグメント	受注高 (前年同期比)	受注残高 (前年同期比)	事業概況
情報通信／ 情報セキュリティ	<b>56.3</b> (+4.8%)	<b>26.3</b> (+128.6%)	5G／DX関連試験は需要堅調も、電子部品不足などによる納期遅延により受注残高が大幅増。
機械制御／振動騒音	<b>48.4</b> (+40.6%)	<b>28.2</b> (+173.0%)	自動車分野で振動騒音計測の需要が回復も、電子部品不足などによる納期遅延により、受注残高が大幅増。
物性／エネルギー	<b>55.5</b> (+41.5%)	<b>33.5</b> (+67.7%)	カーボンニュートラル分野への投資活況、次世代電池開発用測定システムが好調。物性計測分野の計測器やEV向け急速充電評価装置も堅調。
EMC／大型アンテナ	<b>37.5</b> (+28.0%)	<b>45.0</b> (+54.1%)	自動車、産業機械の分野で需要増も、感染再拡大により、海外技術者の来日延期による検収遅延や、中国においても出荷や検収の遅延があり、受注残高が大幅増。
その他 ※1	<b>31.6</b> (△21.9%)	<b>24.8</b> (+20.4%)	海洋／特機では、電子部品不足の影響で海洋関連の主要製品が製造中止となり、一時的に受注が減少。ソフトウェア開発支援では、需要堅調も売上がQ4以降となるものがあり、受注残が大幅増。
合計	<b>229.5</b> (+16.4%)	<b>157.9</b> (+72.3%)	

※1 その他には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンス／マテリアルズの3セグメントが含まれます。

# セグメント別 売上高推移（累計）

## 売上高 前年同期比+4.9%



※1 その他には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンス／マテリアルズの3セグメントが含まれます。

# セグメント別 売上高・セグメント利益（累計）

## 物性／エネルギー、海洋／特機が好調

（単位：億円）

セグメント	売上高 (前年同期比)	セグメント利益 (前年同期比)	事業概況
情報通信／ 情報セキュリティ	<b>52.8</b> (△3.7%)	<b>6.6</b> (△8.3%)	電子部品不足などによる納期遅延により、売上高とセグメント利益が減少。
機械制御／振動騒音	<b>33.3</b> (+2.5%)	<b>5.2</b> (△9.8%)	電子部品不足などによる納期遅延により、売上高が伸びず微増、売上総利益率が低下し、セグメント利益が減少。
物性／エネルギー	<b>43.0</b> (+14.4%)	<b>10.2</b> (+51.2%)	需要の高い製品在庫の確保により、出荷が計画通りにでき、売上高増、セグメント利益は大幅増。
EMC／大型アンテナ	<b>26.7</b> (+8.4%)	<b>0.2</b> (△86.2%)	売上高増も計画より遅れ。自社開発投資を先行的に行ったため、セグメント利益が一時的に大幅減。
その他 ※1	<b>33.6</b> (+8.3%)	<b>5.6</b> (+29.4%)	海洋／特機の特機関連で大型案件の売上があり、売上高とセグメント利益が大幅増。
全社費用 ※2	－ －	△ <b>10.6</b> (+2.1%)	人件費が微増。
合計	<b>189.6</b> (+4.9%)	<b>17.5</b> (+10.0%)	

※1 その他には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンス／マテリアルズの3セグメントが含まれます。

※2 全社費用は、報告セグメントに帰属しない営業費用のほか、引当金の計上方法による差異等が含まれます。

1. 2022年9月期 第3四半期の決算状況

2. セグメント別状況

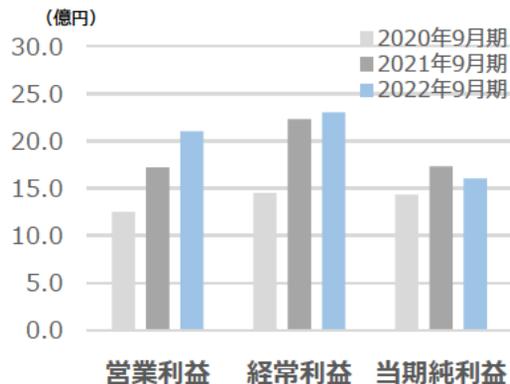
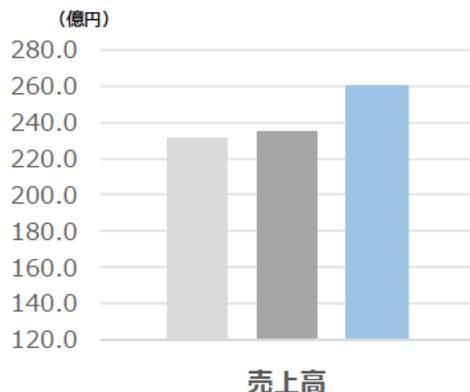
**3. 2022年9月期 業績予想**

4. 企業としての取り組み

5. “はかる”技術への取り組み

# 2022年9月期業績予想値

## サプライチェーンの回復に遅れがあるも、期初計画から変更なし



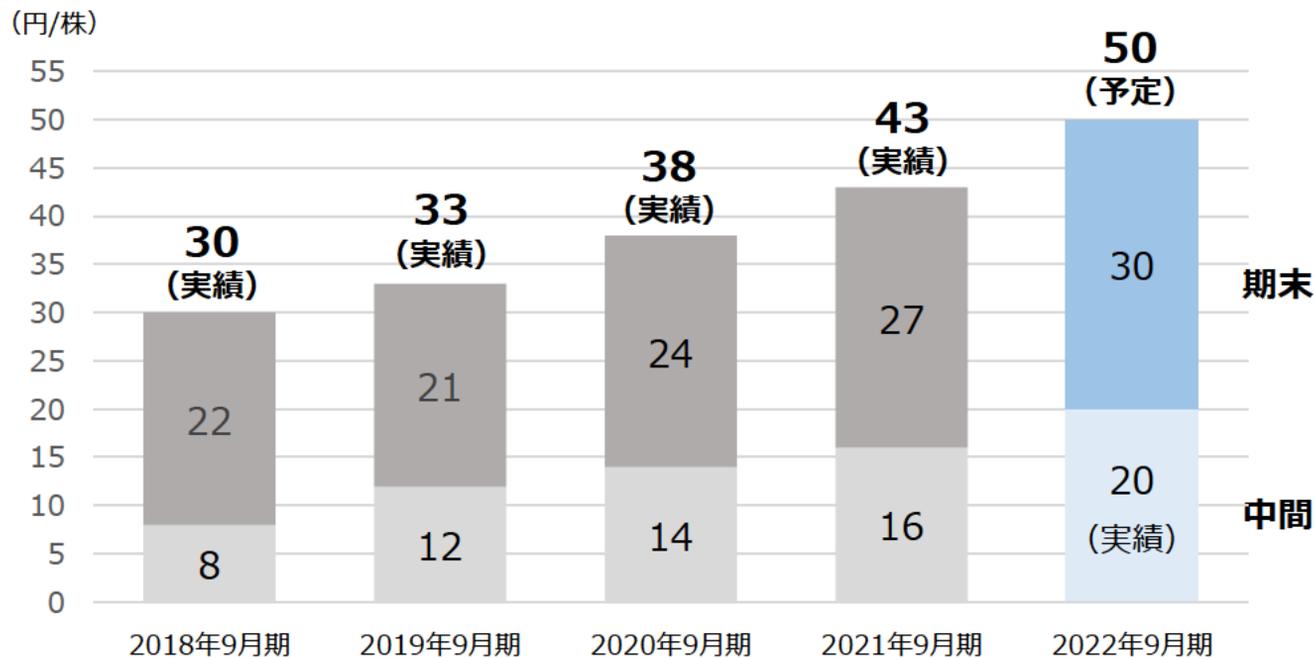
(単位：億円)

	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期 予想値
売上高	231.0	235.1	260.0
営業利益	12.5	17.2	21.0
経常利益	14.5	22.3	23.0
当期純利益	14.3	17.3	16.0

\* 2021年9月期は政策保有株式の売却などにより、特別利益3億3千8百万円を計上しております。

## 2021年9月期比での増配を予定、期初予想どおり

2022年9月期より新しい配当方針となり、**DOE4%** または、**連結配当性向60%** のいずれか大きい配当額を選択



1. 2022年9月期 第3四半期の決算状況
2. セグメント別状況
3. 2022年9月期 業績予想
- 4. 企業としての取り組み**
5. “はかる”技術への取り組み

## 自己株式の取得

株主還元および資本効率の向上と、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を図るため、自己株式の取得を決定しました。

### 取得の内容

- (1) 取得対象株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 取得し得る株式の総数 : 200万株(上限)  
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合: 8.44%)
- (3) 株式の取得価額の総額 : 20億円(上限)
- (4) 取得期間 : 2022年8月12日～2023年8月10日
- (5) 取得の方法 : 東京証券取引所における市場買付け

## 「未来創生3号ファンド」への出資

当社は、「未来創生3号投資事業有限責任組合(通称：未来創生3号ファンド)」に出資する契約を締結いたしました。

今回の出資は、サステナブルな未来創りへの貢献という経営方針に沿ったものであり、SDGsならびにESGへの取り組みを一層強化するとともに、未来創生ファンドが保有する先端技術分野における知見や国内外のネットワークを最大限に活用し、ファンド投資先との協業(オープンイノベーション)の機会を創出し、新規事業創出や技術開発にもつなげてまいります。

### 「未来創生3号ファンド」概要

投資分野	知能化技術、ロボティクス、水素社会実現に資する技術、電動化、新素材、カーボンニュートラル等
投資対象地域	全世界
無限責任組員(運営者)	スパークス・アセット・マネジメント株式会社

参照URL：当社ニュースリリース(2022年7月6日)

[https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/220706\\_mirai\\_sparx\\_70065.pdf](https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/220706_mirai_sparx_70065.pdf)



\*はかる\*技術で未来を創る

1. 2022年9月期 第3四半期の決算状況
2. セグメント別状況
3. 2022年9月期 業績予想
4. 企業としての取り組み
5. **“はかる”技術への取り組み**

## 800GbE対応の次世代ネットワーク パフォーマンス テスター発売

Beyond 400Gの実現を目指し日本の高速通信技術の発展に貢献

DXにおける多様な通信や5G高速通信により今後インターネット通信量はさらに増加すると予測され、現在普及が進んでいる400GbE(ギガビットイーサネット)よりさらに高速な通信(Beyond 400G)規格がすでに米国や中国で立ち上がっています。この次世代高速通信に向けSpirent 社が開発した800GbE 対応の次世代ネットワーク パフォーマンス テスター「Spirent B1 & B2 800G アプライアンス」を、6月に国内で販売開始しました。

6月に開催された「Interop Tokyo 2022」ではライブデモンストレーションを公開し、Best of Show Awardの準グランプリを受賞しました。



Spirent B1(写真上)& B2(写真下) 800Gアプライアンス

参照URL：当社ニュースリリース(2022年6月13日、16日)

- ・[https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/220613\\_spirent\\_800g\\_70059.pdf](https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/220613_spirent_800g_70059.pdf)
- ・[https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/220616\\_interop\\_award\\_70061.pdf](https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/220616_interop_award_70061.pdf)



## 東陽テクニカルマガジン 第33号を発行

### DX・次世代インフラを支えるテクノロジートレンド特集

ウェブコンテンツ「東陽テクニカルマガジン」の第33号を公開しました。「Beyond 5G、サイバーセキュリティ、デジタルツイン」をテーマに、DX・次世代インフラを支えるテクノロジートレンドについて取り上げ、当社のビジネスパートナーであり、各界の最前線で活躍されている方々のインタビューを掲載しています。

またスペシャルコンテンツとして、「DX時代のセキュリティ教育—「人」を最後の砦としてサイバー攻撃から企業を守る」も掲載しています。

下記URLよりご覧いただけます。

\*一部記事を読覧するために会員登録(無料)が必要です。

「東陽テクニカルマガジン」URL：  
・<https://www.toyo.co.jp/magazine/>



「東陽テクニカルマガジン」ウェブサイトTOPページ

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先  
株式会社東陽テクニカ  
経営企画部  
toyo-ir@toyo.co.jp